

## 日向灘の沿岸資源評価結果について

### — 資源部 —

今年度で第8回となる宮崎県資源評価委員会は、9月5日に水産会館5階大研修室で開催され10種（新規1種）が評価されました（表1）。ここでは、重点的に資源管理を推進している「アマダイ類」「イセエビ」「ヒラメ」及び資源レベルが高水準と評価された「サワラ」「タチウオ類」及び新規種の「アオメエソ類」の評価結果の概要を示します。

表1 第8回 資源評価委員会の評価結果

種類		2018年	
1	アマダイ類	B	中位・増加
2	カサゴ	A	中位・増加
3	ヒラメ	A	低位・減少
4	イセエビ	C	低位・横ばい
5	タチウオ類	B	中位・増加
6	マダイ	C	低位・横ばい
7	サワラ	B	高位・横ばい
8	サバフグ類	B	低位・減少
9	シイラ	B	低位・減少
10	アオメエソ類	B	高位・横ばい
		計10種	

- 注1) A、B、C、Dは使用した情報の質や量のレベル
- 注2) 高位、中位、低位は資源レベル
- 注3) 増加、横ばい、低下は直近5カ年の資源量指標値の動向
- 注4) CPUEは1日1隻当たりの漁獲量

#### 1 アマダイ類

2017年の漁獲量：15.6トン、漁獲金額：26百万円、平均単価：1,659円/kg

【評価結果】 資源量の水準：「中位」、 資源量の動向：「増加」



写真1 水揚げされたアカアマダイ

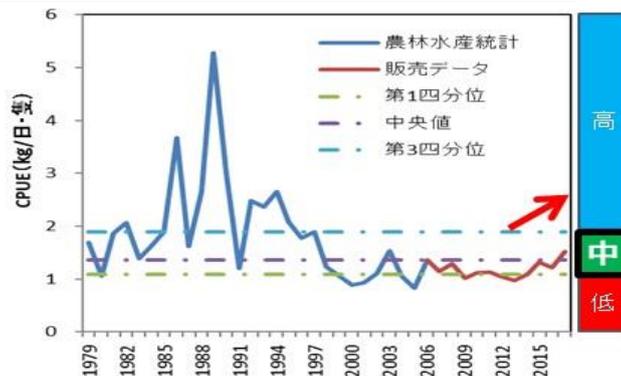


図1 その他の延縄漁業の資源量指標値（CPUE）の推移と動向

#### 【委員会の提言】

近年は資源増加期に入った可能性が高く、今後も再生産成功率の高い状態が継続すれば、資源の増加につながることから、加入量の確保が重要

#### 2 ヒラメ

2017年の漁獲量：24.0トン、漁獲金額：38百万円、平均単価：1,585円/kg

【評価結果】 資源量の水準：「低位」、 資源量の動向：「減少」



写真2 水揚げされたヒラメ

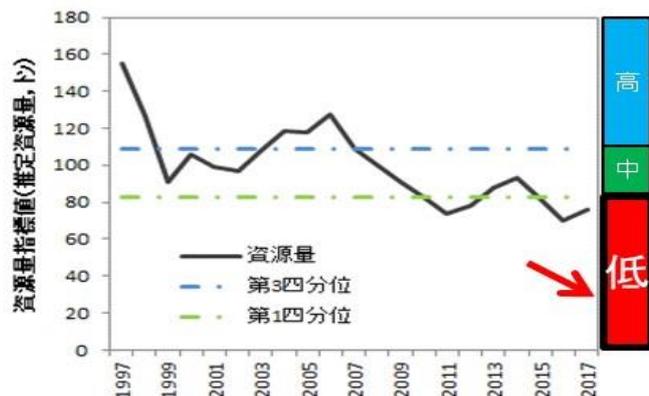


図2 資源量指標値（推定資源量）の推移と動向

【委員会の提言】

近年は、再生産成功率（親魚量に対する加入尾数の指標値）が低迷し、天然若齢魚（0～1歳魚）の資源量が低い水準で推移しているほか、放流魚の混獲率も低下。日向灘を含む太平洋南部海域の資源状況も低位・減少と評価されていることから、今後の資源動向を注視するとともに、再放流の強化など小型魚保護が必要。

### 3 イセエビ

2017年の漁獲量：57.7トン、漁獲金額：303百万円、平均単価：5,251円/kg

【評価結果】 資源量の水準：「中位」、 資源量の動向：「横ばい」



写真3 水揚げされたイセエビ

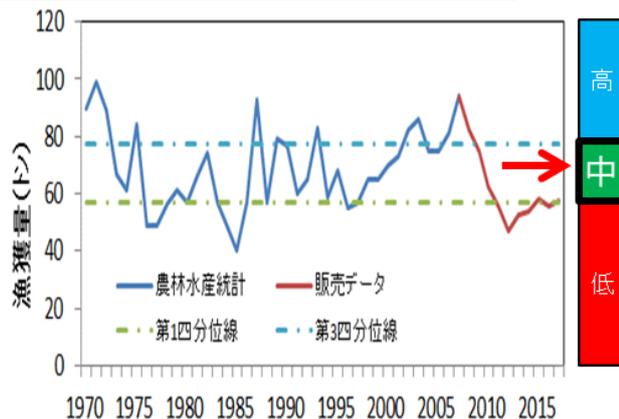


図3 資源量指標値（漁獲量）の推移と動向

【委員会の提言】

加入量増大及び生残率向上のための藻場造成や代替物の検討・設置や、資源の効率的利用方法として小型個体の再放流による漁獲サイズの拡大を促す措置が考えられる。

### 4 タチウオ類

2017年の漁獲量：202トン、漁獲金額：132百万円、平均単価：656円/kg

【評価結果】 資源量の水準：「中位」、 資源量の動向：「増加」



写真3 水揚げされたタチウオ類  
（上：タチウオ、下：テンジクタチ）

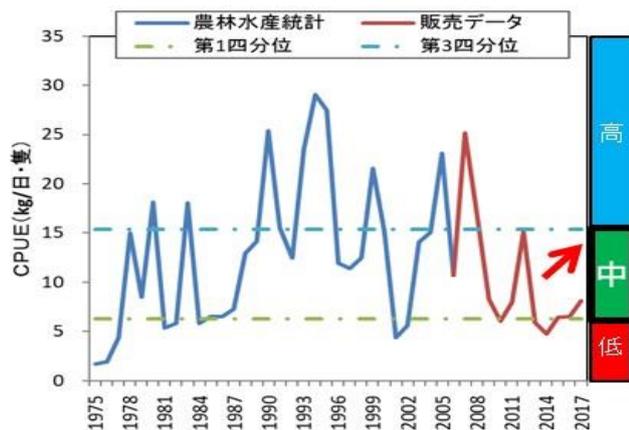


図4 大型定置網漁業の資源量指標値（CPUE）の推移と動向

【委員会の提言】

本県ではテンジクタチの漁獲割合が増えていること、近隣の大分県や愛媛県ではタチウオ資源が減少傾向にあることから、タチウオ資源の主体である瀬戸内海西部海域の資源動向に注視するとともに、種組成の変化等、継続したモニタリングが必要

## 5 サワラ

2017年の漁獲量：279トン、漁獲金額：208百万円、平均単価：746円/kg

【評価結果】 資源量の水準：「高位」、 資源量の動向：「横ばい」



写真3 水揚げされたサワラ

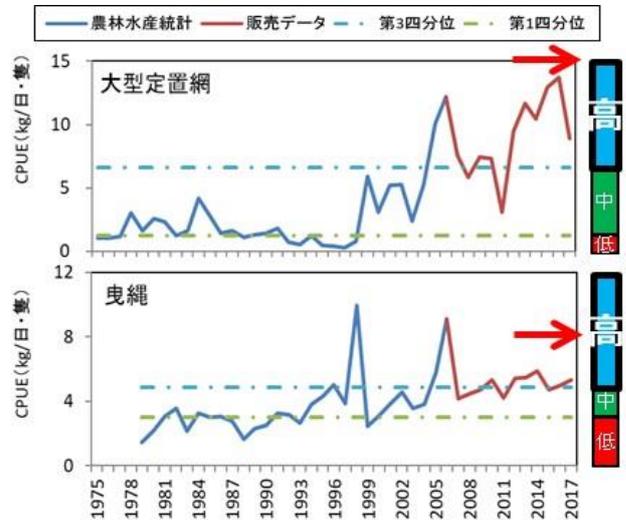


図4 大型定置網漁業と曳縄漁業の資源量指標値 (CPUE) の推移と動向

### 【委員会の提言】

本県は他海域からの来遊してくるサワラを漁獲していると考えられるため、他海域の資源状況や漁獲動向に注視しながら資源利用を図る必要がある

## 6 アオメエソ類

2017年の漁獲量：343トン、漁獲金額：71百万円、平均単価：206円/kg

【評価結果】 資源量の水準：「高位」、 資源量の動向：「横ばい」



写真3 水揚げされたアオメエソ

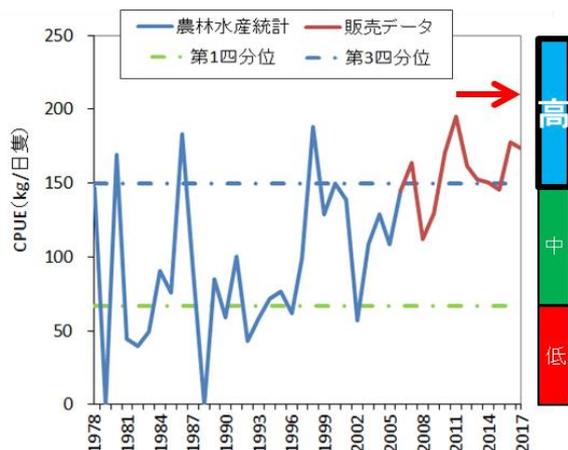


図4 深海えびびき網の資源量指標値 (CPUE) の推移と動向

### 【委員会の提言】

銘柄によって漁獲量は資源量指標値の推移に違いがあることから、今後もモニタリングを継続するとともに、漁獲実態や漁獲サイズ組成等の調査が必要

今年評価した各魚種の詳細は、宮崎県水産試験場 HP (<http://www.mz-suishi.jp/>) に掲載します。